

2021年1月28日(木)

老球の細道589号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART16〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年のウインターカップの最優秀ガードは、男子は準優勝した京都東山高校の米須玲音、女子は優勝した愛知桜花学園の江村優有だと思ふ。驚くべきことにこの二人は共に長崎県佐世保の中学校出身である。長崎と聞いてすぐに山崎先生の関与を思いついた。

『月刊バスケットボール2月号』においては長崎県U15選手権大会で男女アベック優勝を果たした「長崎中央クラブジュニア」の特集が掲載されていた。ここでも山崎先生のごことが記されていた。男子コーチが鶴鳴女子高校の裏手に住んでいて、幼い頃から山崎先生に可愛がってもらい、色々な教えを受けたという。偉大なコーチはいつまでも影響力を与え続けるのである。それでは前号に引き続き新聞記事である。

【コーチ山崎は、自分のバスケットボール知識の多くはアメリカのコーチたちのおかげだと思っていると言った。彼が現在用いているモーション・オフENSEの原点は、インディアナ大学のボビー・ナイトのビデオにある。おそらく100回ぐらいは見ただろうと彼は言った。彼は、バドュー大学のジーン・ケディーのゾーンOFFENSEのやり方には大いに興味を持っているとも言った。そして、彼の今回の自慢は、ショッピングモールで買ったラリー・バードのコーチ・オブ・ザ・イヤー記念Tシャツとインディアナ大学のマークがデザインされた腕時計だとも言った(この腕時計は鹿児島工専のコーチ鮫島へのおみやげである)。

彼はこう言った。「日本の女子バスケットは、アウトサイドシュートが得意だったので国際的にある程度の成果を修めてきた。しかし、日本のバスケットは男女を問わずインサイドプレイには弱い。だから、ボディークンタクトの多い男子においては致命的な欠陥になる」。〈中略〉というわけで、これだけ多くの選手たちをアメリカに連れてきて大いに収穫があったとコーチ山崎は喜んでいる。「もっと多くの選手たちがここに来るといい」「これまで多くのコーチたちがアメリカにやって来て色々なことを学んで帰りました。でも、コーチだけでなく選手自身が来て肌で感じなければわからないことがたくさんあるのです」コーチ山崎はこう言った】

エバンズビル地元紙は会津高校の選手たちについてもコメントを記している。

【彼等もまた、地元の選抜チームと試合をしている。彼等はエバンズビル大学のOB二人からも指導を受けている。「フロア上の5人に何かを指導している時、周りで見学している選手たちはよく注意を払って見ており、指導者の意図を充分理解しているので、交替させて指導する時でもスムーズに指導できます。これは高校生レベルではむずかしいことです。しかし、日本の高校生の試合はとてもソフトです。我々が強調することの一つは何事も攻撃的であれということです。誰かを突き倒したらその選手を立ち上がらせるために手を貸す必要はありません。自分のプレイを続けていいのです。でも彼等はとても礼儀正しくて、すみませんと言って助け起こします」とコーチ・マークはそう語った】

〈続く〉